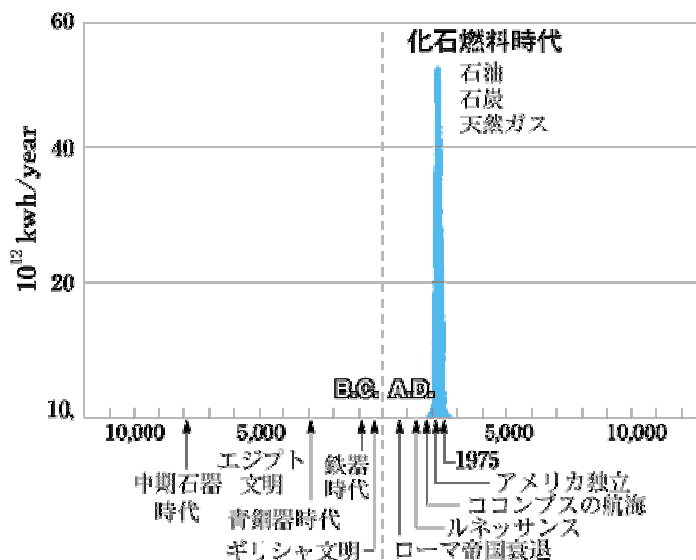


石油ピーク: データ集

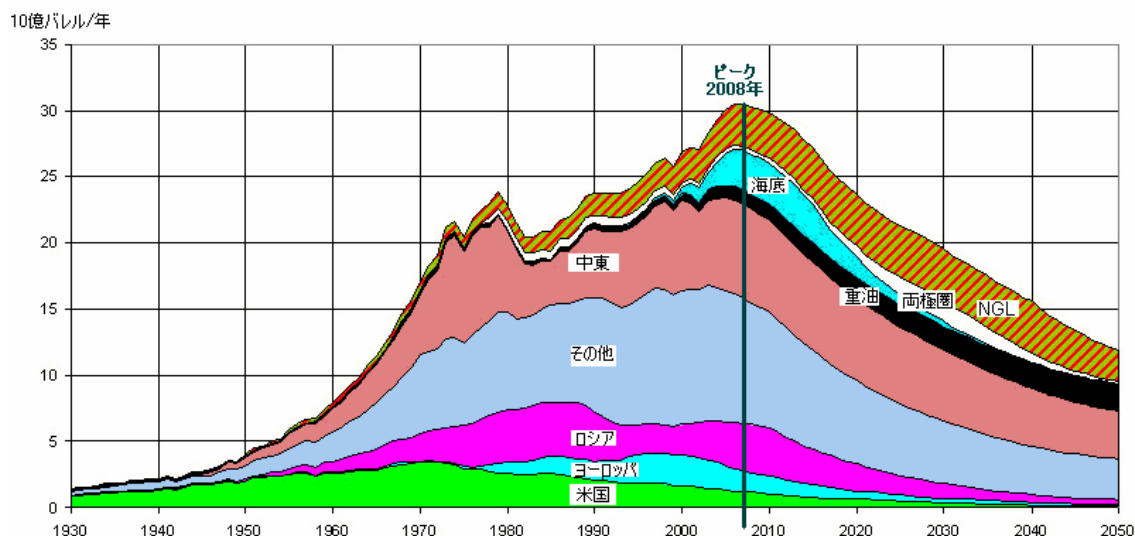
石油ピーク説を示すデータやチャートは数多くあるが、概要を明確に示すものとして、以下にインターネットや著名な出版物から、いくつかのデータを抜粋した。

<一瞬でしかない現代の化石燃料時代>
(出典: オレゴン州政府、1975年)

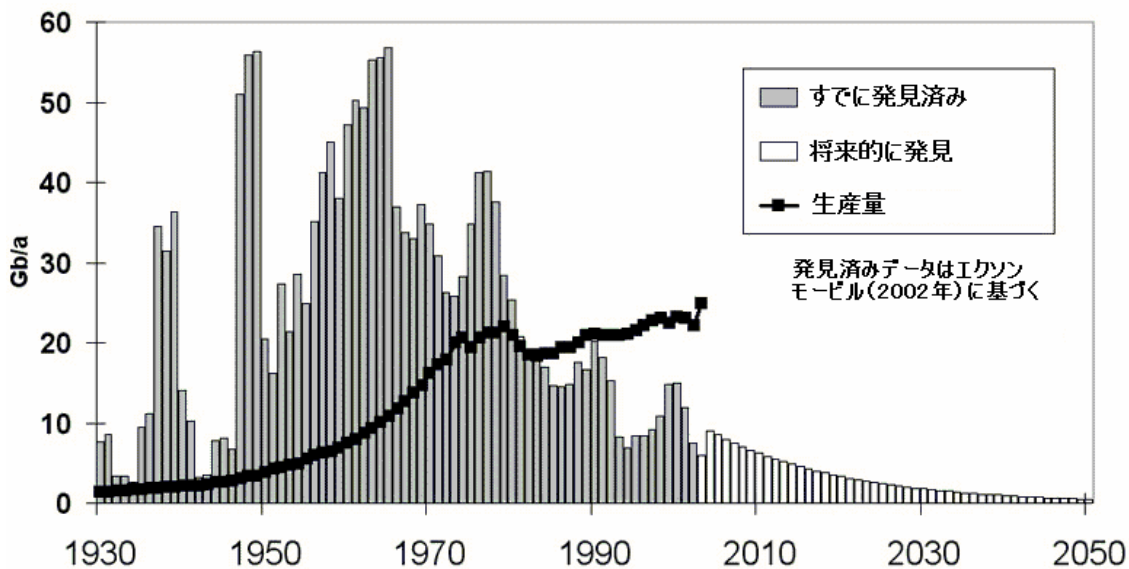


長い人類の歴史のなかで、いくつもの文明が生まれては終わった。現代の工業文明が同じ道をたどらないと、誰が保証できるだろうか。

石油と液化ガス
2004年のシナリオ



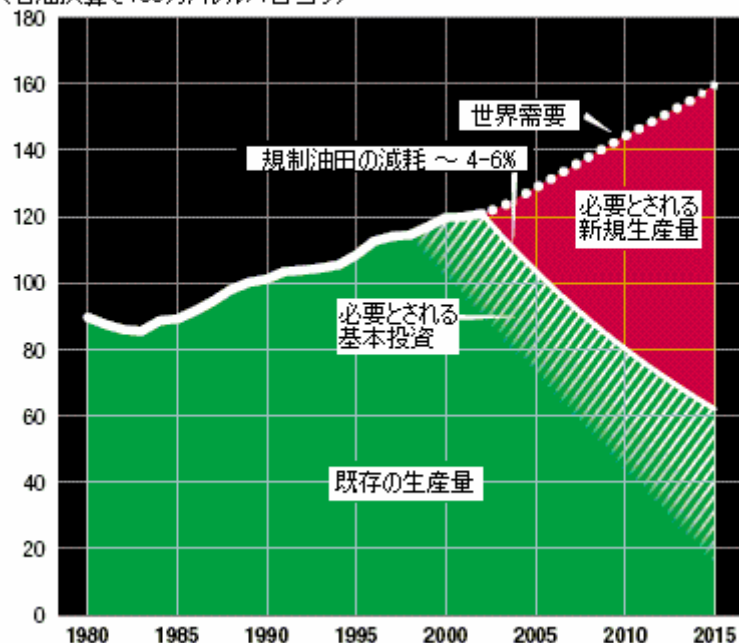
石油ピーク説を明確に表している上の図は、ASPO(アソシエーション・フォー・ザ・スタディ・オブ・ピークオイル)のWebサイトからの引用である。石油生産のピークは2008年で、それ以降生産量は毎年3%から5%減少し続けることを示している。



上の図は油田の発見と石油生産量を表している。1980年代以降、われわれは発見される油田以上の量の石油を掘り出している。ほとんどの石油は50年代から70年代に発見されており、しばらくの間はこの石油を使うことができるだろう。今日、われわれは新たに見つかる石油1バレルに対し、4バレルの石油を消費している。これが持続するはずはない。当然の帰結として、近い将来、掘り出す石油量にあわせて石油消費も減少していかなければいけない。

石油とガスの需要には巨額の投資を要する

(石油換算で100万バレル/1日当り)

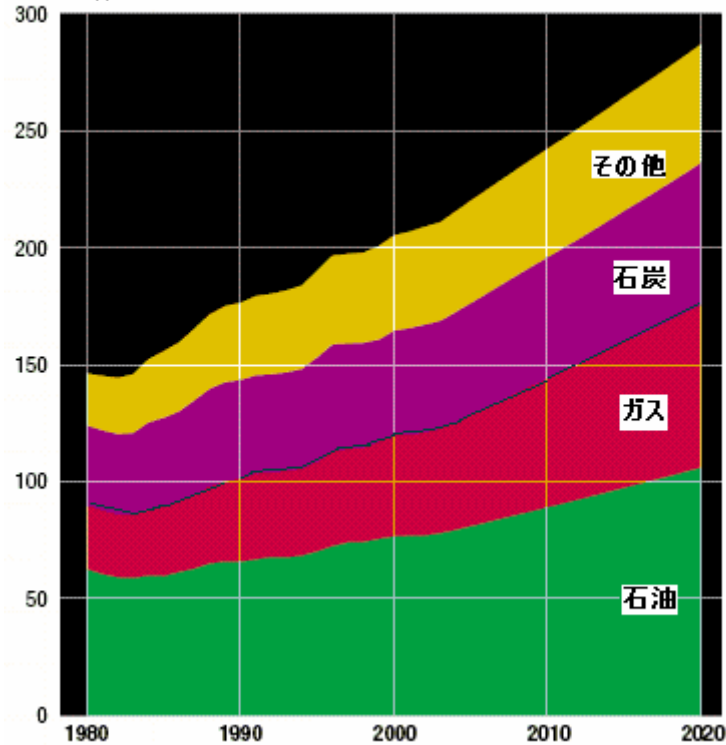


この図も同じことを表している。これはエクソンが発表した2004年度のエネルギーについての報告書からの引用である。

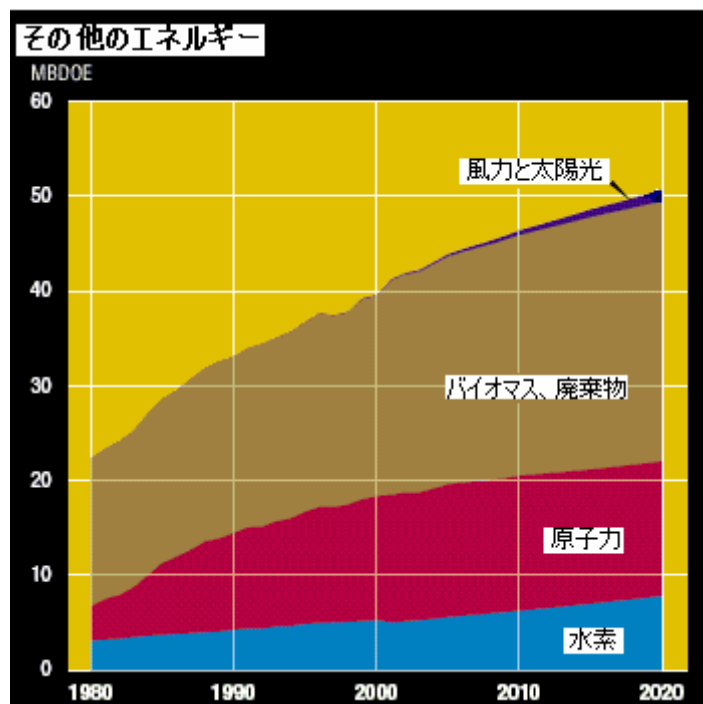
これは今後15年間に、消費需要に見合うために必要な石油生産量と新規に発見された石油を示している。このデータが石油会社からのものであることを考えると、この図はきわめて深刻な状況を示している。

エネルギー総量

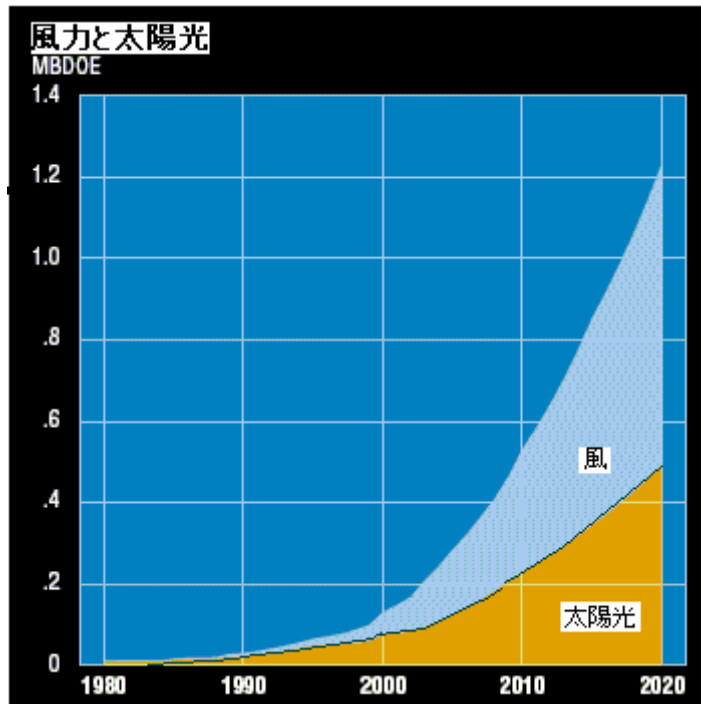
(石油換算で100万バレル/日当り)



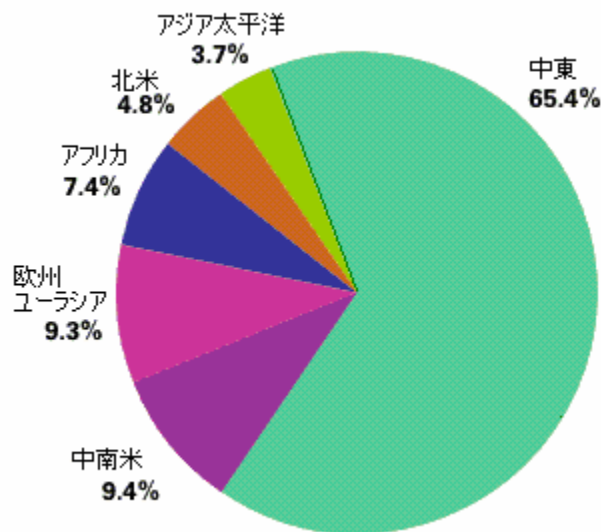
これはエネルギー供給を異なる資源ごとに示した図である。石油とガスが 60%以上を占めており、その他の資源はわずか 20%に過ぎない。その他にはどんなエネルギーがあるのだろうか。



その他のエネルギーを資源ごとに示した図である。最も多いのがバイオマスで、次が原子力である。風力、太陽光はほんのわずかしかエネルギーしか供給していない。



上の図は風力と太陽光の図である。2004年には、あわせても全体のエネルギー供給量のわずか0.2%にしかならない。そして2015年までにわずか1%しか増加しないと予測されている。減退する石油とガスの生産の代替となるにはまったく不十分である。



これは BP が発表した最新のチャートである。中東地域が今後、石油生産の主要国となっていく。中東には、世界の石油の65%が埋蔵されている。これは石油会社にとって、きわめて重要なことである。

参考資料

- ・ピークオイルセンター「Facts&Data」:
<http://members.home.nl/peakoil/facts.html>
- ・東京大学名誉教授・富山国際大学教授 石井吉徳先生のサイト:
<http://www007.upp.so-net.ne.jp/tikyuu/>
- ・ビル・トッテンのニュースレター「Our World」:
<http://www.ashisuto.co.jp/> [企業理念 ビル・トッテンからのメッセージ]

(2005/03/07)